

英訳マンガから見る英語表現の一考察：『DEATH NOTE』を事例として」（『新教育課程研究』第 61 号、武蔵野教育研究会、令和 7 年 8 月）、1-55 頁

「プロローグ」「1 『DEATH NOTE』」「2 『DEATH NOTE』の第 1 巻」「3 道徳的な取り扱いについて」「エピローグ」の順で論じた。特に、一連の英語版マンガを使用した教材研究で今回は『DEATH NOTE』を取り上げたが、犯罪がらみの表現も一部があったが、できるだけ一般的な表現に着目した。高校 3 年生の夜神月の勉強面での悩みなども英語表現ではどうなるのかは参考になっただろう。また、塾を“prep course”などとしている点も注目に値する。今回は英語表現が着目したが、文化的には「死神」の扱い方も大きなテーマである。（A 5）